

令和3年9月 3日

南の風 413

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

久しぶりの通常号です。前号を確認されながら引用文をお読みください。

それでも、クラブハウスの丸テーブルを囲んであれこれ話すうちに、誰かが何かいい意見をつぶやきます。

改革のプロセスで、私たちの間で流行った言葉をひとつ紹介しましょう。

「とにかく、一周しておいで」

仮に、自分が信じているものがひとつある。ここに長らく居座ってきたけれども、一度ぐるっと一周回ってまったく違うものを見てきてはどうか。それでも「前居たところがいい」となれば、戻ってほしいじゃない、という話です。動いたこともないのに、他を否定するだけなのはあまりにももったいない。だからとにかく一周しておいで、というのです。

思うにフットボールの指導者は我が強く、キャラクターの濃い方が多いようです。

これは私も含めてなのですが、自分が思う理論やスタイル、このような選手はこのポジションをやらなきゃいけない、勝つためにはこういうシステムで臨まなければいけないといったことまで、こうでなければいけないというこだわりが非常に強い。

その確信が強すぎると、視野が狭まり、他社の意見を受け入れられなくなります。成長が止まってしまふ要素になりがちです。

例えば「久保建英は左サイドじゃなくて右サイドじゃなきゃダメだ」

右じゃなく左でもいいかもね、いや真ん中でも、トップ下でもいいかもしれない。勝手に自分で思い込んでいるのです。

よって、自分でこうだと思っている確固たる信念みたいなもの、一番譲れないものにこそ「クエスチョンマークをつけて、こころに余裕をもて」と教わったのです。

～ 中略 ～

習慣化している。自分が信じてやまない。そういったことにこそ、あえて「？」マークをつけ、疑ってみましょう。きっと多くの気づきが得られるはずです。

それが学び壊しです。

ラーン (Learn=学び)

↓

アンラーン (Unlearn=学び壊し)

↓

リラーン (Relearn=学び直し)

次号にします。